

第5学年 体育科学習指導案

1 単元名 「とび箱運動 ～大きくとんで、ピタッときめよう！～」(7時間単元)

2 指導を進めるにあたっての基本的な考え方

こんな子どもを
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本学級の子どもたちは、体育の学習に関する興味・関心が高く、どの運動にも一生懸命に取り組む姿が見られる。1学期の体育学習において、グループ内での教え合い活動を経験しているが、体力の差や苦手意識があるために、グループでの活動が停滞してしまうこともある。また、漠然と見合っつまずきや技のポイントについて教え合い活動をするまでに至っていない。 ○ 事前アンケートの結果から、とび箱運動について79%の子どもたちが「とても好き」「好き」と答えている。理由として「いろいろな技に挑戦できるから」など、運動特性に楽しさを感じていることが分かる。一方で、とび箱運動が「嫌い」とする子ども(21%)の理由も「あまり技ができないから」が挙げられており、「できる」ことが楽しさを味わう上で必要条件となっていると考えられる。また、事前の実態調査では、50%の子どもたちが開脚跳び(5段・横)ができるが、ほとんどの子どもたちがかかえ込み跳びをすることができない。一方で、開脚跳びで跳びこすのがやっと、または、とび箱の上に乗れない子どももおり、個人差が大きい。

こんな教材で	こんな支援で
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本教材は、いろいろな跳び方でとび箱を跳び越すことが楽しい運動である。自分に合った高さや向きのとび箱を気持ちよく跳び越したり、新しい跳び方に挑戦して跳べるようになったりしたときに、大きな喜びが得られる運動である。 ○ 切り返し系の技(開脚跳び・大きな開脚跳び・かかえ込み跳び)、回転系の技(台上前転・大きな台上前転)など基本的な支持跳び越し技に取り組む。自己の能力に適した「できる技」や「できそうな技」に挑戦していく。そこで、とび箱運動の楽しさに触れ、それらの技をより大きくより安定してできるようにする。 ○ とび箱運動を挑戦する楽しさ・できたときの喜びを味あわせることは、子どもたちのやる気を高め、伸びようとする態度が育まれる。そこで、技ができるように挑戦する学習が、「公教育の福岡モデル」の「(3)子どもの力を引き出し発揮させる教育」につながる点でも意義深いものである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グルーピングの方法について <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと見合ったり教え合ったりすることができるように、課題別グループで活動する。 ・ 各自の課題が分かるように、名前をホワイトボードに貼り、それぞれの場に掲示する。 ○ 場づくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・ いくつかの高さや向きのとび箱を準備し、それぞれの技に取り組むことができるようにする。 ・ 自分の力に応じて練習方法を選ぶことができるように、練習方法を紹介したり考えさせたりする。 ○ 交流のさせ方について <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な助言をしたり、技のポイントに気付かせる発問をしたりして、つまずきや技のポイントを明確にして教え合い活動ができるようにする。 ・ 課題解決の手がかりになるように、それぞれの技の「ポイントカード」を掲示する。

めざす子どもの姿
<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な支持跳び越し技に取り組む、それぞれの系について自分の力に適した技を大きく安定した動作で跳びこすことができる子ども。 (技能) ○ 安全に気をつけて進んで運動に取り組む、友達と見合ったり教え合ったりしている中で運動の楽しさや喜びを感じることができる子ども。 (態度) ○ つまずきや技のコツを知って課題をもち、自己の能力に応じた場や練習方法を選ぶことで課題解決ができる子ども。 (思考・判断)

3 学習と指導の計画 (全7時間)

時	1	2	3	4	5 (本時)	6	7
0	1 学習の見通しをもつ (1) 学習のねらいと学習のすすめ方をする。 (2) 安全の約束と場のづくり方を確認する。	1 前時の学習を振り返り、学習の準備をする。 (1) それぞれの場をつくり、学習の進め方を確認する。 ○場のづくり方 ○安全の約束 ○学習のねらい (2) 慣れの動きをする。 ○ストレッチ ○腕で支える感覚づくり運動 ※ 毎時間始めに感覚づくり運動を行い、跳び箱運動に必要な「腕で身体を支える力」を身につけさせる。					1 学習の準備をし、慣れの動きをする。 (1) それぞれの場をつくり、学習の進め方を確認する。 (2) 慣れの動きをする。 ○ストレッチ ○腕で支える感覚づくり運動
5	2 学習の準備をする。 (1) 慣れの動きをする。 ○ ストレッチ ○ 腕で支える感覚づくり運動 (2) 本時のめあてを確認する。	2 本時のめあてを確認して、「やってみる」と「ひろげる」の活動を行う。					2 本時のめあてを確認して、「できる技」や「できそうな技」のめあての活動をする。
10	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 財産調べをして、とび箱運動のめあてを決めよう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> やってみる 自分の力にあった「できる技」に取り組み、安定して大きくとぶコツをつかもう。 </div>					
20	(3) 場づくりをする。 (4段、5段、6段、7段)	(1) 「できる技」に取り組み、見つけたコツを出し合う。 ○ 練習する場 (4段、5段、6段、7段) のグループの確認 ※ 課題別にグルーピングし、ポイントカードを見ながら各ポイントを絞って見合ったり教え合ったりすることができるようにする。					(1) それぞれの場で「できる技」に取り組む。 ○ 練習する場 (4段、5段、6段、7段) やグループを確認
35	3 財産調べをする。 ※ 腰の位置の高さの跳び箱で財産調べをする。 ○ 開脚跳び ○ かかえこみ跳び ※できそうな高さの跳び箱で財産調べをする。 ○ 台上前転 ※ 判断基準については、めあて確認の際に伝えるとともに学習ノートに載せておく。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ひろげる 自分の課題に合った場や練習方法を選んで、「できそうな技」に挑戦しよう。 </div>					(2) 「できる技」を見せ合う。 ○開きやく跳び ○かかえこみ跳び ○台上前転 ○大きな開きやくとび ○大きな台上前転 ※ 跳ぶことができるようになった技を見せ合い、自己達成感を味わわせたり他者評価をしたりする。
	4 学習を振り返り、次時の学習の見通しを持つ。 (1) 学習ノートに活動の振り返りを書き、めあてを決定する。 (2) 後片付けをする。	3 学習を振り返り、次時の学習の見通しを持つ。 (1) 学習ノートに活動の振り返りを書き、全体で交流する。 ※ 「動きのどの場面」の「体のどの部分」など具体的振り返らせ、次時の課題解決につなげる。 (2) 後片付けをする					3 学習を振り返り、次時の学習の見通しを持つ。 (1) 学習ノートに活動の振り返りを書き、全体で交流する。 (2) 後片付けをする。
めざす子どもの姿	○基本的な支持跳び越しの習得に取り組むことができる。(技) ○安全に気を付けて、友達と見合いながら活動することができる。(態) ○自分のできる技を確認して、どんな技を習得していきたいかをめあてを持つ。(思)	○できる技のコツを見つけたり、できそうな技に挑戦したりすることができる。(技) ○安全に気を付けて、友達と見合ったり教え合ったりしながら活動することができる。(態) ○自分の力や課題に応じた技の場や練習方法を選んだり工夫したりすることができる。(思)					○できそうな技を習得することができる。(技) ○安全に気を付けて、友達とかかわり合いながら活動することができる。(態) ○活動を通して、自分の課題を克服する動きを考えたりすることができる。(思)

4 本時学習

(1) 本時の目標

- できる技のコツをより確かにして、できそうな技に挑戦することができる。(技能)
- 安全に気を付けて、友達と見合ったり教え合ったりしながら活動することができる。(態度)
- 自分の力や課題に応じた技の場や練習方法を選んだり工夫したりすることができる。(思考・判断)

(2) 準備

教師：跳び箱、マット、踏切板、ロイター板、調整箱、平均台、ビニルテープ、ゴムひも、めあて一覧表（場の設定方法とグルーピングを示したもの）、ポイントカード

児童：学習ノート、筆記用具

5 展開（5／7）

	学習活動と内容	学習活動に即した支援
0	1 前時の学習を振り返り、学習の準備をする。 (1) それぞれの場をつくり、学習の進め方を確認する。	※ 4～5 人のグループの必要な役割分担を行うことで、安全で素早い準備ができるようにする。また、けがや事故を防ぐため、安全に気を付けて準備するよう声かけをする。 ※ 手のひら全体をつけて身体を支えるように個別に声をかけていき、跳び箱運動に必要な「腕で身体を支える力」が身についていくようにする。
5	(2) 慣れの運動をする。 (ストレッチ) ・肩 ・腰 ・手首 ・足首 ・首 など (腕で支える感覚づくり運動) ・かえる倒立 ・かえるの足打ち ・うさぎ跳び ・腕立て歩き など	
10	2 本時のめあてを確認して、「やってみる」と「ひろげる」の活動を行う。	※ 学習ノートでめあてを確認させ、活動の見通しと意欲を持たせる。
	やってみる 自分の力にあった「できる技」に取り組み、安定して大きくとぶコツをつかもう。	
	(1) 「できる技」に取り組み、見つけたコツを出し合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;"> 跳んでいるときに腰が上がっているか見て。(開脚跳び) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;"> 肩と同じ高さまであと少しだったよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;"> 「かえるの足打ち」のように、おしりを上げたらいと思うよ。 </div> </div>	※ 課題別にグルーピングして、ポイントカードを見ながら各ポイントを絞って見合ったり教え合ったりすることができるようにする。 ※ 見つけたコツを共有することができるように、吹き出しにコツを書いてポイントカードに貼る。
20	ひろげる 自分の課題に合った場や練習方法を選んで、「できそうな技」に挑戦しよう。	
	(2) 「できそうな技」に挑戦し、動きを教え合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;"> 両腕の間から足が出てないか見て。(かかえ込み跳び) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;"> 跳び越すとき左手が外れて、左から足が出ていたよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;"> 「腕立て上がりの練習」で跳び箱の上上がる時、手をついた場所から前に立つ練習を試みるといいかもよ。 </div> </div>	※ 自分の力や課題に合わせて練習方法を選ばせ、大きく安定した動作で跳ぶことができるようにする。 ※ めあてのポイントに合った練習のしかたを考えているか、挑戦する跳び箱の高さは適切かどうかなど観察し、必要に応じて助言する。
35	3 学習を振り返り、次時の学習の見通しを持つ。 (1) 学習ノートに活動の振り返りを書き、全体で交流する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> 着手の時、手がつく場所を前にしたらいいよと教えてくれて、できるようになりました。 </div>	※ 学習ノートに「どの場面」の「体のどの部分」に目を付けたのかを具体的に書かせ、つまずきや技のコツを明確に持たせ、次時の課題解決につなげる。
45	(2) 後片付けをする。	